



スポーツ・メガイイベント開催によって生み出される遺産の研究

生活環境科学系・スポーツ健康科学領域

石坂 友司

教授

ISHIZAKA Yuji

博士(体育科学)(筑波大学)

■研究キーワード スポーツ社会学, 歴史社会学, オリンピック, 長野オリンピック, 東京オリンピック, 都市開発, スポーツ・メガイイベント, 地域スポーツ

■主な所属学会 日本スポーツ社会学会, 日本体育社会学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本社会学会, 奈良体育学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.82f270a17b2ca3c8520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

2021年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。近年、オリンピックやFIFA・W杯をはじめとするスポーツ・メガイイベントの開催が注目を浴びています。都市や国家はなぜメガイイベントを必要とするのか、そのような社会をどのように考えることができるのでしょうか。

東京では戦後2度のオリンピックが開催されました(1964年/2021年)。冬季オリンピックでは札幌大会(1972年)、長野大会(1998年)が開催され、札幌が2度目の大会招致を目指しています。メガイイベントが計画・開催されると、さまざまな課題や問題が生じ、地域や都市、日本社会は大きく変容します。そこで、大会後に生み出される正負の遺産について、現地調査(フィールドワーク)を行いながら検証を行っています。



東京オリンピックで生み出された遺産
(ホストタウン事業/競技場)



研究のプロセス・研究事例

このような本を書いています。

1. オリンピックが開催された時代と社会【歴史社会学的研究】



2. オリンピック開催によって生み出された遺産【メガイイベントの遺産研究】



3. オリンピックの構造的変容について【オリンピック研究】

